

卒業論文の要旨

論文題目	クリプトツーリズムに関する考察 ―クリプトツーリズムと景観の関係性―
氏名	鈴木 鮎美
メジャー	公共政策
(要旨)	
<p>近年、アニメ、ドラマ、小説などのコンテンツ作品の舞台を観光するコンテンツツーリズムが注目されている。コンテンツツーリズムとは体験型観光の一つで、地域の物語性を五感で感じ、地域振興につながるものと定義される。また、「聖地巡礼」と称され、大きな経済効果を生んでいる。しかし、アニメのキャラクターなどのパネルやかわいらしくて奇妙なデザインの建物は景観から浮き上がり、地域住民を困惑させている。そこで、クリプトツーリズムに注目する。クリプトツーリズムは妖怪を用いたコンテンツツーリズムのことだ。アニメ、文学といった様々なコンテンツに登場する妖怪をモチーフにしたツーリズムには、親しみやすいという利点がある。そのため、日本各地で行われており、中には景観の保全政策にクリプトツーリズムを用いている地域がある。</p> <p>遠野では市民のアイデンティティである『遠野物語』を景観保全政策に利用し、町全体が遠野物語の舞台と化している。また、小泉八雲ゆかりの地、松江では景観保全政策に八雲の作品を用いたものはない物の、八雲作品に登場する場所が遺る。そうした場所は見えないものに対する恐怖を思い起させてくれるものとなっている。</p> <p>コンテンツツーリズムの代表格、アニメツーリズムを行う地域の中にも景観保全政策へと舵を切った地域がある。水木しげるゆかりの地、鳥取県境港市だ。同市を「ガールズ&パンツァー」でアニメツーリズムを行う、茨城県大洗町と比較した。大洗では作品とタイアップし、自治体だけではなく、地域商店が協力し、キャラクターパネルを町の至る所に設置している。これにより、作品のファンと地域住民の交流が生まれた。一方、境港市では妖怪ブロンズ像を設置した水木しげるロードをつくった。さらにロード内の建物は2階建てまで等、「昭和レトロ」を彷彿とさせる修景を行っている。</p> <p>従来のコンテンツツーリズムでは、地域経済に潤いをもたらし、作品のファンと地域住民の交流を生み出した。しかし、アニメのキャラクターなどのパネルなどの副産物は景観から逸脱したものとなっていた。一方、クリプトツーリズムが行われている地域では景観の保全を促すものとなってきている。今日、日本各地では様々な形態のクリプトツーリズムが見られる。今後は地域経済に潤いをもたらすという面だけでなく、景観の保全につながる可能性があるという面にも注目を向けるようにすべきだ。</p>	
(指導教員の推薦のコメント)	
<p>本論文は、妖怪や怪談などを観光に利用する「クリプトツーリズム」を取り上げ、その特徴と可能性を論じたものである。筆者は、論文で取り上げた岩手県遠野、島根県松江、鳥取県境港、茨城県大洗等実際に足を運んで現地調査を行い、その内容を上手く活かした独創的な論文に仕上げている。クリプトツーリズムが景観保全に繋がるという本論文の結論は卓見と言えよう。学問の原点である「調べることの楽しさ」が伝わる、魅力的な卒業論文である。</p>	